

(1) やけどをした・煙などを吸い込んだ

こんなとき、救急車を！



- 全身または広範囲のやけど
- やけどした皮膚の色が白くなっている(皮膚の奥まで深くやけどしている可能性があります)
- 火災などで、煙やガスを吸い込んだ
 - ・息が苦しい、声がかすれる
 - ・のどが痛い(のどがはれて、だんだん息ができなくなります)
 - ・ボーっとしている(一酸化炭素を吸った可能性があります)



ワンポイントアドバイス



すぐに水で冷やしましょう

やけどをしたら、流水(水道水を流しながら)や氷水で、10分以上(可能なら30分間)冷やしてください。勢いよく水をあてると皮膚がはがれる恐れがあるので、洗面器に水をはるなどして、冷やしましょう。

特にお子さんの場合、やけどの範囲が広いときは、冷やしすぎて体温が下がらないように注意しましょう。

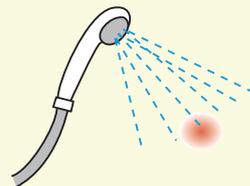


衣服は脱がさず、そのまま冷やします

衣服などは無理に脱がさず、そのまま冷やします。衣服を脱がせる時に皮膚がはがれてしまうことがあるので、衣服の上から水のシャワーをかけてください。

水ぶくれはつぶさない

水ぶくれがつぶれると、そこから雑菌が入って化膿する恐れがあります。つぶれたら、消毒して清潔にしておいてください。



受診するときには

受診するまでは応急処置として、水で冷やすだけにして、**市販薬などは塗らない**でください。医療機関でのやけどの治療に差しつかえる場合があります。患部を氷やぬれたタオルで冷やしたまま受診してください。

